

5 授業の見通し

授業のめあてや流れを明示することで、見通しを持って授業に臨むことができ、主体的な学習が期待できます。

学習活動の始まりと終わりを明確に示し、いつまでに何をするのか、どこまでやれば終わりのかなど、具体的に示すことがポイントです。

1 授業のめあてや流れを視覚化する

(1) 授業のめあてや流れを示す

黒板の端や小黒板、ホワイトボードなどに授業のめあてや流れを掲示します。本時の課題は何か、今は何をしているのか、次に何をするのかなど流れが分かると安心できます（図 5-1）。

(2) 「今、流れのどこにいるのか」を示す

【→】や【いま】や【おわたたら】などのマークを活用します。

また、黒板に教科書のページを示したり、学習活動を示すマークを活用したりすると授業の見通しが持ちやすくなります（図 5-2）。

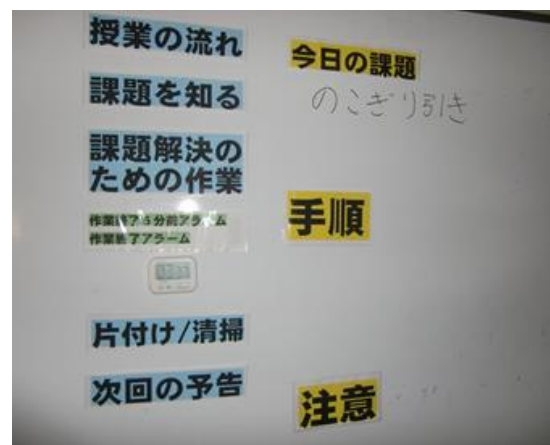


図 5-1 「授業の流れの掲示（中：技術）」



図 5-2 「学習活動を示すマークを活用した黒板（小：算数）」



<ユニバーサルデザインの視点>

「④欲しい情報がわかりやすく提供される授業」

→児童生徒の学習への意欲や努力を持続させるためには、目標や目的を目立たせ、時間の見通しが持てるための工夫が大切になります。

2 作業終了を予告するアラームによる時間表示（中：技術）

生徒は、作業に熱中してしまうと時間を忘れてしまうことがあります。また、途中で作業を終わらせることはなかなかできません。

そこで作業5分前になったらアラームを鳴らすことを予告します。そうすると生徒は、切りのいいところで作業を終わるようにしたり、少しペースを上げたりします。また、5分後にすぐやめられるような作業内容に切り替えたりして、作業終了時刻には、ほぼ全員終われるようになります（図5-3）。



図5-3「作業終了を予告するアラーム」

教師からの「早く終わりにしなさい」という余計な指示もほとんど必要ありません。慣れてくると、終了アラームの合図で片付けや掃除を自発的に取り組みます。



3 個人作業進度表

個人作業進度表は、今どこまで作業が進んでいるか確認するものです。

例えば、木工でいうと設計（4時間）、けがき（4時間）、加工（4時間）、組み立て（4時間）、仕上げ（2時間）と計画を立て、クラス名簿の上段に作業工程を記入します。

木工室に作業進度表を掲示しておき、生徒は各作業が終了したら●印をつけます。生徒は、今どこまで作業が進んでいるのか、あとどれくらいの時間があるのか、次に何をすればいいのか確認できます（図5-4）。

	氏名	設計		けがき		加工		組み立て		仕上げ
		10/4	10/11	10/18	10/25	11/1	11/8	11/15	11/29	12/6
1		●	●	●	●	●	●			
2		●	●	●	●					
3		●	●	●	●	●	●	●		
4		●	●	●	●	●				
5		●	●	●	●	●	●			
6		●	●	●	●	●				

図5-4「進捗状況が見える作業進度表」

教師も全体的な進捗も確認でき、特に遅れている生徒に対して具体的な個別の支援が容易になります。



4 授業プリントやノートを活用

児童生徒に配布するプリントや授業ノートには、授業の見通しを持たせる効果があります。

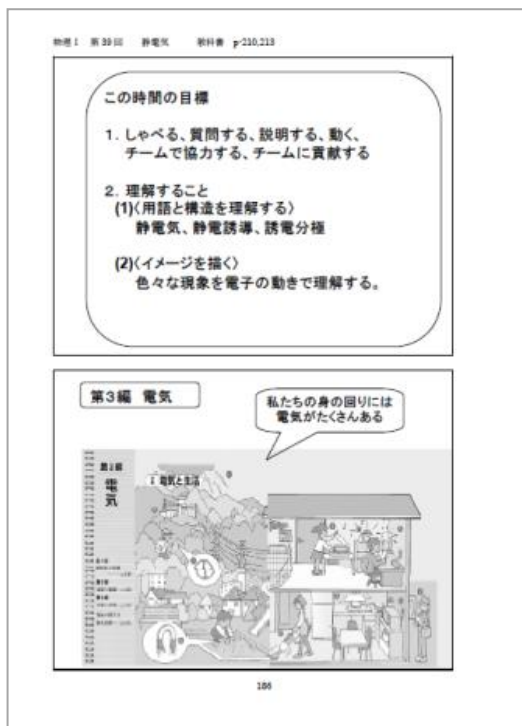


図 5-5 「次時の予告（高：物理）」

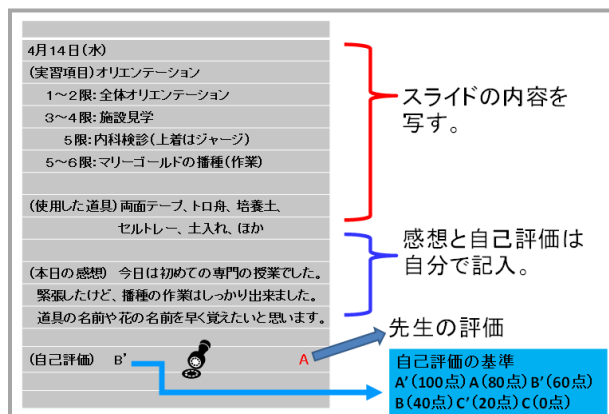


図 5-6 「学習記録ノートの活用（特：作業学習）」

学習に効果的なポイントは、繰り返し活用する習慣をつけることです。

記入することが目的になるのではなく、忘れてきた手帳を見返す習慣をつけることが大切です。生徒が「使って便利！」と実感できるようにしましょう。

次回の授業で使用するプリント資料を配布し、内容を予告します。

生徒の興味・関心を引き出し、見通しと意欲を持たせて授業に臨むことができます。

教科書のページも記すことで、予習もしやすくなります。

5 年間指導計画やシラバスの活用 ～授業の長・中期的な見通し～

年間、単元、単位時間など、長期的及び短期的な観点から授業の見通しを伝えていくことは、生徒側の学ぶ準備をしやすくなります。年間指導計画を示す、シラバスを有効活用するなどといったことが具体的な策としてあげられます。

<特別な教育的支援を必要とする児童生徒への効果>

自閉症のある児童生徒は、相手の話す意図や要点を正確につかむことが苦手です。また、これから起こることの予測がつかないと不安に感じやすく、学習にうまく取りかかれないことがあります。そのため、授業のめあてや流れを“授業の前”にはっきりと示すと安心して授業に取り組めます。

ADHD（注意欠陥多動性障害）の特性の一つに「不注意」があります。不注意による指示や説明の聞き漏らしのために「今、やるべきこと」を見失ってしまい、授業についていけなくなることがあります。そこで、「授業の流れと“今”」がわかる工夫はADHDの児童生徒にとっては、大変に有効な支援となります。

1 学習活動を視覚的に示す

授業の流れ、活動の手順をイラストや写真、実物など視覚的に示します。導入の説明だけに使用するのではなく、活動の途中に児童生徒が自分でやり方を確認したり、授業の振り返りに使用したりと繰り返し活用することがコツです。

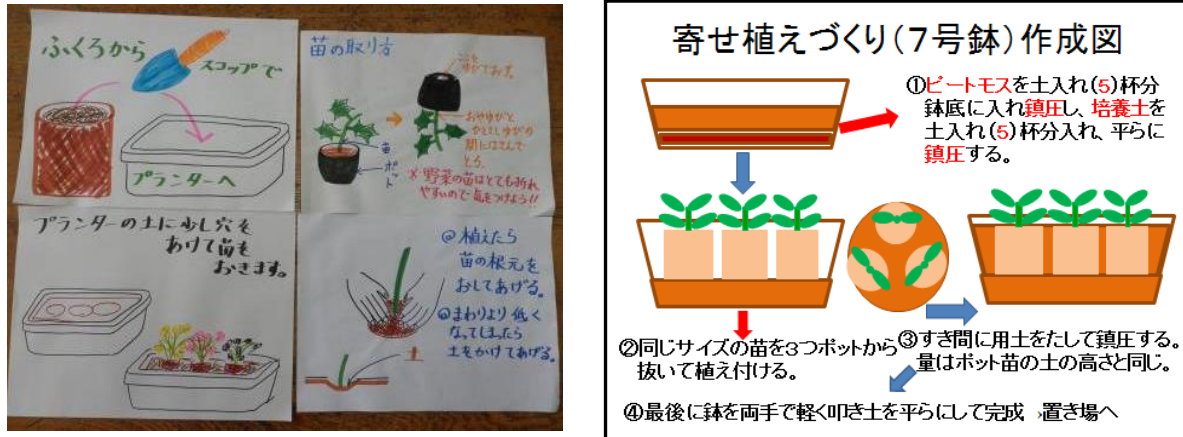


図 5-7 「活動の手順をイラストで示す」

2 学習の流れを個別に示す

ホワイトボードを活用し、授業の流れを自分で確認しながら学習を進めます。

写真やイラストカードを用いるとより効果的です。

終わった課題のカードを外していくことで、見通しと達成感が得られます。



図 5-8 「個別の予定表」



図 5-9 「イラスト入り」

3 時計やタイマーの活用

活動の終わりを示すため、時計に目印をつけて読みやすく工夫したり、タイマーを活用したりします。

タイマーは、残り時間が「量」として把握できるタイプもあります。



図 5-10 「残り時間が“見える”タイマー」